

# FRUiTS

No.6

1月号 増刊 通巻6号 1998年1月1日発行

1 フルーツ  
STREET 1月号増刊号  
1998

500yen



contents



fruits-mg.com

november.1997

原宿  
TOKYO BOPPER





シャツ：20471120  
スカート：小学校の卒業式で着たもの  
アクセサリー：自作  
美容室：ACQUA  
17才、高校生



カーディガン：古着  
シャツ：マサキ マツシマ  
パンツ：ビューティービースト  
シューズ：ジョン ムーア  
アクセサリー：髪、ビューティービースト  
ファッショントピック：PunkでGOAで…  
美容室：ソラリス  
今ハマっている事：美容室見学  
好きな音楽：ガバ、ゴア  
20才、美容専門学校生

セーター：上-3年くらい前の。下-ママの  
パンツ、ビューティービースト  
シューズ：Z-Tech  
アクセサリー：髪  
ファッショントピック：宇宙人  
美容室：ソラリス  
今ハマっている事：ダーリン  
好きな音楽：ゴア  
のっち（18才）、美容専門学校生



カーティガン：ヴィヴィアン ウエストウッド  
ブラウス：ヴィヴィアン ウエストウッド  
パンツ：手作り  
シューズ：バーコード  
バッグ：ヴィヴィアン ウエストウッド  
ファッショントピック：やさしい色でまとめた  
美容室：SHIMA  
今ハマっている事：麦茶を作る  
好きな音楽：ハードコア  
カオリ（18才）、高校生



ジャンパー：古着  
スカート：布をまいてます  
バッグ：てづくり  
ファッショントピック：唐草模様  
美容室：SHIMA原宿  
今ハマっている事：エヴァ  
好きな音楽：TOKYO No.1 SOUL SET  
モリタ マキコ（19才）、大学生







ジャケット：マルコム マクラーレン  
シャツ：マルコム マ克拉ーレン  
パンツ：ワールズ エンド  
シューズ：イアン リード  
帽子：ヴィヴィアン ウエストウッド  
ファッショントピック：パンツの後のふくらみ  
美容室：VOLUME  
今ハマっている事：ねること  
好きな音楽：UKの音楽のあとはGLAY  
ワタナベ（19才）、専門学校生



ジャケット：コム デ ギャルソン トリコ  
シャツ：ヘルムート ラング  
スカート：ジュンヤ ワタナベ  
バッグ：マサキ マツシマ  
美容室：ウルトラC  
今ハマっている事：フラクタル  
好きな音楽：ハードコア  
みき（19才）、専門学校生





コート：古着  
セーター：コム デ ギャルソン  
シャツ：古着  
パンツ：自作  
シューズ：ヴィヴィアン ウエストウッド  
リボン：手編み  
ファッションのポイント：バロックアニマル'99  
美容室：自分  
今ハマっている事：たくさん  
好きな音楽：ダメ音楽以外すべて大好き  
紅（15才）、中学生



ジャケット：古着  
Tシャツ：ヴィヴィアン ウエストウッド  
スカート：ヨージ ヤマモト  
アクセサリー：人形（私の赤ちゃん）=6%ドキドキ  
もみじ=インテリアの店、ヴィヴィアン ウエストウッド  
ファッショントピック：秋の親子愛  
美容室：カットは自分、カラーはGIRL LOVES BOYのあと自分  
今ハマっている事：たくさん  
好きな音楽：テクノ、パンク、クラシック（バロック）、賛美歌  
紅（15才）、中学生



ブラウス : bulle de savon  
シャツ : オゾン コミュニティ  
スカート : オゾン コミュニティ  
シューズ : アンテナ  
バッグ : オゾック  
ファッショントピック : 頭  
美容室 : HMTT (からすやま店)  
今ハマッている事 : インラインスケート  
オッコ (22才)、エステティシャン



ジャケット : 自作 (ペイント他)  
ブラウス : ジーン マープル (借り物)  
スカート : 友達から買った  
シューズ : WHITE  
ファッショントピック : いつもメラメラ  
美容室 : アルファ湯本さん  
今ハマッている事 : ねことあそぶ  
好きな音楽 : パンク  
けいこ (18才)、高校生











カーディガン：ママのもの  
スカート：自分で編んだ  
シューズ：バーコード  
バッグ：J.P.ゴルチエ  
ファッショントピック：編んだスカート  
美容室：VIVACE  
今ハマっている事：料理、シャボン玉  
好きな音楽：クラシック  
ナナ（18才）、高校生



コート：自分のブランド 眠々（ねむねむ）  
パンツ：眠々  
シューズ：コンバース  
ファッショントピック：でかえりのコート  
今ハマっている事：服作りとバンド  
好きな音楽：ミクスチャー  
本田 まこと（20才）、大学生



セーター：ミルク  
指輪：手作り  
ファッショントピント：リカちゃん、ひこうき  
美容室：SHIMA原宿店  
今ハマッている事：おもちゃあつめ  
好きな音楽：Judy And Mary がスキ  
うちゅうじん1号（19才）、美容学校



シャツ：ゴム  
パンツ：The nine head  
シューズ：コージー クガ  
バッグ：ポーター  
ファッショントピント：きれいに  
美容室：ACQUA  
今ハマッている事：ネイルアート  
好きな音楽：ハウス  
20才、美容

シャツ：JOHN-BULL  
パンツ：JOHN-BULL  
ファッショントピント：いつもと同じ  
美容室：SHIMAd 代官山  
好きな音楽：ハウス、ハッピーハードコア  
19才、インターナ



ジャケット：1%  
セーター：アズ ノウ アズ  
スカート：作った  
シューズ：ラフォーレで  
ファッションのポイント：とくにない  
美容室：オブヘアー  
18才、専門学校生



シャツ：中学生の弟のもの  
パンツ：ベティーズブルー  
バッグ：ベティーズブルー  
ファッションのポイント：デビルな羽としっぽ  
美容室：地元  
今ハマっている事：服。もっとオシャレになりたい  
好きな音楽：T.M.Revolutionのような  
まい（16才）、高校生

コート：ピースナウ  
シャツ：ピースナウ  
バッグ：ミルク  
ファッションのポイント：死神  
美容室：ナイーブ  
今ハマっている事：変なもの  
リエ（16才）、高校生



シャツ：ガブリエル チェルシー  
パンツ：タイガー  
シューズ：ゲッタ クリップ  
アクセサリー：ミルクボーイ  
バッグ：友人作（ダンボ）  
ファッションのポイント：てきとう  
美容室：自分  
今ハマっている事：レコード集めたい  
好きな音楽：スカコア  
アサミ（19才）、専門学校生

セーター：ミルクボーイ  
パンツ：クリストファー ネメス  
シューズ：アンダーグラウンド  
アクセサリー：ミルクボーイ  
帽子：そのへんで  
ファッションのポイント：ソフトパンク  
美容室：自分で  
今ハマっている事：レコード集め  
好きな音楽：ガールズ、スカコア  
ヒデ（18才）、大学生



パンツ：アリーナ  
シューズ：NIKE  
帽子：ロイヤルズ  
ファッションのポイント：B.O.B ANIMALZっぽく  
美容室：ゴカン  
今ハマっている事：B.O.B ANIMALZ  
好きな音楽：B.O.B ANIMALZ  
ツグ（21才）、大学生



は人それぞれで。これでコンピュータのオ

ーディオ・アウトとかをそのまま出力につなげると、本当にできるんですよ。

F R 読者の人にも、どんどんやつていつてほしいんですね。

ケン なんか音楽やりたいってトライするんだつたら、ギターとアンプとか買うより早いし、ある程度のものは作れるんじゃないですか。勘のいい人だったら、練習とか無じでできますからね。

F R 音楽理論的なものはあるんですか？

ケン 僕に関しては、理論ということではないですね。理論ではなくて、やっぱり経験で。

D J カルチャーの中から生まれてきた音楽なので。本来だったら何もプレイできない、ただレコードをかけるだけのDJが、どうして音楽を作るかと言うと、やっぱ音楽を聞いてきた知識量。普通の人が知らないものまで聞いてきて、ここでこうなれば良いとか、そういうのが経験値でわかつて。DJが自分でプレイできない場合でも、テクニック的にうまいエンジニアと組むというパターンがあつて、曲はここでこういうふうな展開になって、こうなればいいとか、そういうことは全部DJが浮かんで。エンジニアが機械を操作していく。そういうパターンは、ハウス以降特に強いんじゃないですかね。ヒップホップもそうかもしれない。その辺が一绪になると、さらにアーティストとして一段上に行けるというか、経験とテクニックのある、独立したアーチス

トとしてやつていけると思うんですよ。

F R ケン・イシイさんは、作る前は、DJをやつてたんですか？ スタートは大学生の頃ですね。

ケン ほんと同時ですね。もともと、中学・高校の頃から、ずっと音楽とか好きで。今は渋谷とかレコード店がいっぱいありますけど、当時は1、2軒しかなくて、学校の通り道というのもあって、週に何回も輸入盤店とか、中学ぐらいから通つたりしたんです。

F R DJのお店ですか？

ケン WAVEができる前の西武の中に入つた所とか、他に何軒がありましたね。シスコもつたし。あの辺の草分けみたいな店に大体いつも行つて。ダンスミュージックとかの新しいものが入つてきて、常に更新されていくおもしろさがあったから。まずリスナーとしてがずっと長かったです。

F R 中学からですか。

ケン その中で、友達とパーティやろうよとか、DJやろうという話になつて。単純なミックスの練習とかはもう十代の終わりからやつていて。ただ、シーンがあつたかというと、無くて。その当時は、「こく一部の、何人かの知り合いの中でだけ、テクノというのは知られてたから。その中でやりつづけ、ある程度のところになつてくると、それは実際の話で。それは自分にとってもすごく夢のある世界で。

F R 今でも、ベッドルームから世界に出でいる可能性はありますか？

ケン あると思いますよ。ただ、やっぱ、音楽的にも成熟してきてるので、クオリティや音楽が強いものであれば、今でも可能だと思いますよ。

F R 何人か出てきますか。

ケン 日本ですか？ 出てきますよ、いっぽい。いまテクノの中でもいろいろあつて、ダンスフロアより、ビートでボップボップっていうのでもいるし、R&Bからもシングルを出している日本のアーティストが何人もいるし。ブレイクしている人といふのは、必ずしも多くはないんですけど。アンダーグラウンドのダンスシーンとか。ダンスじゃなく、チルアウトとかアンビエントと言われている方面とかでいろんな人記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン この10年、15年だと思いますよ、そういうふうになつたのも。

F R 音楽理論的なものはあるんですか？

ケン 僕に関しては、理論ということではないですね。理論ではなくて、やっぱり経験で。

D J カルチャーの中から生まれてきた音楽なので。本来だったら何もプレイできない、ただレコードをかけるだけのDJが、どうして音楽を作るかと言うと、やっぱ音楽を聞いてきた知識量。普通の人が知らないものまで聞いてきて、ここでこうなれば良いとか、そういうのが経験値でわかつて。DJが自分でプレイできない場合でも、テクニック的にうまいエンジニアと組むというパターンがあつて、曲はここでこういうふうな展開になって、こうなればいいとか、そういうことは全部DJが浮かんで。エンジニアが機械を操作していく。そういうパターンは、ハウス以降特に強いんじゃないですかね。ヒップホップもそうかもしれない。その辺が一緒になると、さらにアーティストとして一段上に行けるというか、経験とテクニックのある、独立したアーチス

りたいなどいう気持ちに移つてきて。ま、DJみたいなことも遊びでずっと続けていたんですけど、そつちのクリエイターとしてのほうにのめり込んでいく。

D J みたいなことも遊びでずっと続けていたんですけど、そつちのクリエイターとしてのほうにのめり込んでいく。

F R 一番最初は、アントワープの、じゃないベルギーのレコード会社から？

ケン そうですね。ベルギーのゲントって、アントワープが話題なので。

F R 一番最初は、アントワープの、じゃないベルギーのレコード会社から？

ケン そうなんですか。ベルギーのゲントって、アントワープが話題なので。

ケン 最近そうですね。けつこう、アントワープのファッショングループデザイナーや、シヨーとかのオファーが多いですよ。同じベルギーという意識が強いみたいで。

F R 今、一番すごいですよね。アントワープから出ているデザイナーが、革革命的な感じで。

ケン 勢いあるみたいですね。僕の知つてる限りだと、ベルギーの中つて基本的に二つの国民なんですけど。フランス語圏と

フレミッシュユットいうオランダ語に近い言葉の民族と。今まで、政治的にもフランス語圏が強かつたんですけど、最近、文化的にも政治的にもフレミッシュの方が伸びてきて。大体、その辺のデザイナーって、みんなフレミッシュ系なので、多分、フラ

ンスのティスツじゃないんだと思うんですよ。オランダのほうのティスツが強いから、だから新しく感じるんじゃないかなって思っています。名前もフランスのパートーンじゃないし。

F R そうですね。ケン それで、R&Sというレコード会社がゲントにあって、そこが好きだったから。デン・オン・ザ・パークなんですか？

F R デモを送つて。

ケン そうですね。ケン それと、R&Sというレコード会社がゲントにあって、そこが好きだったから。ケン そうですね。

F R 最初に送つたデモの曲が、「ガーデン」ですか？

ケン そんなことはないです。いくつか作り始めて、二年したころで。最初はその当時その当時のテクノの音の中で、ギタリストのように、ものまねみたいな、そういうふうなことをちょこちょことやつてたんですけど。それやつているうちに、テクニカル的には、こうすればこうなるだらうつていうことがだんだん見えてくるようになつてきて。それと、既に向こうで流行つてることと同じものをやつたところで、わざわざ日本から出で行つても、向こうに同じような才能が「こまん」といるわけで。同じ音なのに、わざわざ僕とサインしようとは思わないだらうなと思つて。それで、その時から「コピー」というか、まねするのはやめにして。こうなつたら自分の好きな音楽をやっていこうって。もともと、オリジナリティがすごく重要視されているジャンルな

りたいなどいう気持ちに移つてきて。ま、DJみたいなことも遊びでずっと続けていたんですけど、そつちのクリエイターとしてのほうにのめり込んでいく。

D J みたいなことも遊びでずっと続けていたんですけど、そつちのクリエイターとしてのほうにのめり込んでいく。

F R 一番最初は、アントワープの、じゃないベルギーのレコード会社から？

ケン そうなんですか。ベルギーのゲントって、アントワープが話題なので。

F R 一番最初は、アントワープの、じゃないベルギーのレコード会社から？

ケン そうですね。ベルギーのゲントって、アントワープが話題なので。

ケン 最近そうですね。けつこう、アントワープのファッショングループデザイナーや、シヨーとかのオファーが多いですよ。同じベルギーという意識が強いみたいで。

F R 今、一番すごいですよね。アントワープから出ているデザイナーが、革革命的な感じで。

ケン 勢いあるみたいですね。僕の知つてる限りだと、ベルギーの中つて基本的に二つの国民なんですけど。フランス語圏と

フレミッシュユットいうオランダ語に近い言葉の民族と。今まで、政治的にもフランス語圏が強かつたんですけど、最近、文化的にも政治的にもフレミッシュの方が伸びてきて。大体、その辺のデザイナーって、みんなフレミッシュ系なので、多分、フラ

F R 机の上で全部できちゃうという世界ですよね。

ケン 本当に。言葉としてもベッドルーム・テクノみたいな言われ方があって、自分のベッドルームで作つたものが、数は少ないとはいって、世界中に行き渡るみたいな。それは実際の話で。それは自分にとってもすごく夢のある世界で。

F R 今でも、ベッドルームから世界に出でいる可能性はありますか？

ケン あると思いますよ。ただ、やっぱ、音楽的にも成熟してきてるので、クオリティや音楽が強いものであれば、今でも可能だと思いますよ。

F R 何人か出てきますか。

ケン 日本ですか？ 出てきますよ、いっぽい。いまテクノの中でもいろいろあつて、ダンスフロアより、ビートでボップボップっていうのでもいるし、R&Bからもシングルを出している日本のアーティストが何人もいるし。ブレイクしている人といふのは、必ずしも多くはないんですけど。アンダーグラウンドのダンスシーンとか。ダンスじゃなく、チルアウトとかアンビエントと言われている方面とかでいろんな人記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン この10年、15年だと思いますよ、そういうふうになつたのも。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に買えるようになつて。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

F R へ、いいですね。ちょっと夢のようですね。

ケン いえ。レコードを出す前には一回も行かなかつたですね。

F R テープのやりとりとかですか。

ケン DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですが、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがボディーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですが。それがちょうど普通に



は難しいかもしないですね。

ケン ある一線から上というのは、それが  
問題になつてくるでしょうね。  
FR 技術だけではプロになれなくて。感  
覚の部分での勝負っていうのは、逆に敵し  
い世界もあるかもしれないですね。

ケン センスとかって、経験によって磨かれるものだと思ってるんで。まずは、本当に、いろんな音楽をいっぱい聞いてみるというところから始まるんじゃないかなと。

F R

かは、海外からもどんどん入ってきてるんですか。

ケンモヒラなどといふ、普通の大  
きいレコード店ありますよね、タワーとか  
バージンとか。ああいうところに、テクノ

コーナーがあつて、そこで。  
FR けつこう揃いますか。

ケン 僕も、いろんなところへ行つてます  
けど、アンダーグラウンドなものも含めて、

東京というか、渋谷をニューヨークと比較すれば、渋谷のほうが、全然あるし。

F R そうですか。

クジロボンなどでは、スハシテハス  
ド・ショップがいっぱいあるけど、東京に  
いれば、大体、世界中のものが揃いますよ

10

おうう

シヤキ 18+  
もてせんを  
myuu

コバヤ  
現在、

前田各お元気ですか?  
秋あきあき新聞 桑



アホちゃん・バカかず。あきひめ(VOL.1 ハサシNightの時)

日美 今、おやじでやってることは、リーゼントの  
ワインディング。フェイシャル。スカルプチャーカール。  
不器用な私は人より1倍、練習しづらくや  
ついていけないのですが、かくいぼってマス。  
うちのクラスで「フレイクスンゼン」の人は、シヤージ。  
私もアーティスの赤のズボン買っちゃった。  
東ちんたーし、あつたがいでのG00Dですよ。



"⑦" Thunder Ball 情報"⑦" 今年中にレコードigr"に入り)、  
12月ライヴ予定  
☆ 8日 新宿JAM (OPEN 6:30) 来年未定、デモテープ・CD・  
= ラブピックス・ファッキンライフ・ドリフターズ = レコード発売決定!!

☆ 19日 新宿JAM (OPEN 6:30) BUZZ Fuzz Fuzz  
= ファイヤーインジン・ハウリングギター =

☆ 16日 OR 21日 新宿 CLUB ACID ムサシNight  
= DJ,しゅん・かず・はせか・ゆうか・ひで = ~We are PINHEADS~  
※ぜひ来てね♥



FR 音楽を作っているときに、日本つて  
ケン オリエンタルなメロディとか、そう  
いう意味ですか？

FR 音楽の中に、例えば、日本性を入れ  
ていきたいとか。

ケン 僕は意識はしてないですね。トラディ  
ショナルが嫌いという訳じゃなくて、僕  
の今までのやり方というのは、意図的にオ  
リエンタリズムを入れてというのじゃなく  
て、「こく自然に、作りたいものを作るとい  
うこと」でやってるんで。全く気にしないで  
好きなものだけを作りますけど。その中  
に、西洋人とかは、なんか、オリエンタル  
なものを感じたりするらしいんですけど。た  
だ、それはすごく自然なもので。僕にとっ  
ては、日本だけじゃなくて、例えば、周辺  
の韓国とかベトナムの面白いパークッシュョ  
ンミュージックなり、面白い楽器の音色な  
りがいっぱい存在してて。単純に、一つ一  
つが面白いなという。その面白いなという  
部分に引っかかったものは取り入れるとい  
うか。その程度で。ただ、いろいろな地域  
や国でやってたりすると、日本が見えてく  
るというのはありますね。社会としてとか  
マーケットとしてというのは、やっぱり意  
識としてはついてくる。けれども音楽その  
ものとしては、ピュアのだけを取り入れ  
ていくみたいな。

FR 今あるヨーロッパのシーンとは違う  
もの、自分のオリジナールなものを作つてい

ケン そうですね、シーンというの、常に、知つていなきやいけないと思うんですね。どういうふうに流れていくかっていうのは、僕も、もともと、DJ、リスナーだいどころは常に続けるので。その中で、全くシーンとリンクしなさすぎるのはやりたくないし。シーンとリンクしつつ、自分のオーディナリティというのが常に出ていくように心がけますね。

FR でも、そういうシーンを知るというのは、専門家の人は、いろいろ入ってくるでしょうけど、僕みたいにテクノに興味を持ちだしたばかりの段階で、そういうシーンを理解するためのメディアって、あまり無いんですね。

ケン 僕が聞きだした時は、本当に、全く無い時から日本で聞いてるから。今は一般誌でもずいぶん取り上げられることが多くなってきて、僕個人のプレスにしても、テクノシーンを取り上げるプレスにしても、そういう意味だと、まず取つかりとしては、それだけでもいいというか。すべての人が本質まで理解する必要はないと思うんです。僕が他のシャンブルの音楽を聞く時も単純に、聞きざわりがいいねとか、ノリがいいねとか、そういう部分なわけで。結局感覚的にいいなと思えるところまでいけば全然いいと思ってるんです。リスナーを限定するつもりは全然ないし。これを理解してくれないと、オレは聞いてもらいたくなかったりとか、そういうのは一切無いし。気軽に

F.R. あと同じ音楽ビジネスの中で、ビジネスがビジネスがとなりにあるわけじゃないですか、100万枚セールスとか。その辺に對しての考えは？

ケン セールスとかってそんなに気にならないんですね。基本的には、自分のやりたいことが続けられればいいんだし。例えば、同じようなテクノシーンから出てきて、100万枚とか何百万枚とか売っているバンドが2、3あるんですよ。世界には。プロデジーとかケミカルブラザースとか。その辺とかは、音的にはロックに近く聞こえたりしてるんですけど。基本的には、もともとダンスマニアージックから進化してきた人達で。そういう可能性というのも、今はがあるので。自分はアンダーグラウンドだと割り切り過ぎなくともいいと思う。本当に自分のやりたいこととか、自分のオリジナリティを追求してれば、もしかしたら、化けてそつちの方に行くかもしないし、メガセールスとか。あるいは、自分の道だけを進めるという、仙人化していくというか、そういう道もあるだろうし。それはその人のオリジナリティで、結局その先どうなるかというのは、たまたまいっぱいの人が好きになるか、少數の人が好きになるかの違いでしかないから。







# beauty:beast

more than one culture of origin

## インタビュー (part 2)

山下 隆生  
TAKAO YAMASITA

FR 3回程続けてパリでやつた  
年、96年の間で3回。その間1回は阪神大震災の災害が原因で行いませんでした。  
FR ビジネス的な反応はどうでしたか？  
山下 そうですね。展示会にも参加したりしてたんですけどね。例えばロンドンコレクションの場合ショーアの前に展示会場で服を見せてたりしてるじゃないですか。やっぱり、クリエイターというのはコレクションの前に服を見せるんだって。リサーチに来た時に、コレクションの前にちゃんと展示会をやってたんですよ。やっぱり、こつちはまずビジネスがあつて、ファッショントーションショーアというのがあって。パリというのは、ハクが付くみたいな部分、最初はあつたんですけど。でも、バイヤーの人と話してるなかで、この服を日本からパリに送ると、私たちのプライスにするときは、ヨージ・ヤマモトよりも高くなる。コムデギャルソンよりも高い服になりますよと言われただすよ。売れるのも、菊とか鯉とかのプリントのTシ

山下「アタッジメントフレスもいろいろ回って、セカンド・ビューローのシルビー・グランバツクさんに最後に会ったんですよ。そのときは、どういう人なのか知らないくて。オフィスの待合室にヴィヴィアンのマリエとガリアーノのドレスが掛かっていて、すごい、こういう人達をやつてるんだって。シルビーはすごく暖かい人で、「コンセプトはなんですか?」って聞かれて。「コンセプトはハイト・アン・ド・ウォー・フォーキー94です。」って言ったら、「なんで憎しみを言いたいのか。」って。僕は「ラブ・アンド・ピースの裏返しの言葉として、憎しみと戦争という言葉を持つてることで、よりラブ・アンド・ピースという言葉がフォーカスされるんじゃないかな、自由解放的なファンションを作りたかったから。」っていう話をしたら、「やつてみよう。」って言つてくれた。「私たちは、こうやって服を預かって、大事な人が来たら見せるのが本来の仕事で、あとは、コレクションのサポートの仕事をやります」と。

ヤツで。こういう商売をやつて  
も駄目だつて。ただ、パリでの展  
示会の時に、ロンドンの工場の方  
と知り合いになれて、U.K.ライン  
というのが作れる契約ができたん  
です。96年から、パリをやめて  
ロンドンで物を作つて、日本国内  
のディストリビューターを、まず  
固めようとしたんです。それがだ  
んだん、今の動きにつながつてい  
くんんですけど。でもU.K.ラインも  
3シーズンで終わつたんです。結  
局、クオリティコントロールの問  
題で、大喧嘩して。FOBプライ  
スとかも、急にポンドが上がつた  
りするじゃないですか。それにイ  
ンポートのシステムを作らなきや  
いけなことも大きな問題で。今の  
段階では、U.K.ラインもストップ  
なんです。

「山下 そうですね、シルビーが言つてくれたのは、「だれだつて、最初は、お金にならない。クリエーターは最初は儲からないんだ。」って。シルビーには迷惑掛けっぱなしで。FR でもお金はシビアにとるんですよ。

山下 ビジネスとして取れる分は取る。でも、だんだん回を重ねるうちに分かってくれるようになって。あるときの会場費は無料だったんですよ。シルビーが、「友達が無料で貸してくれて、あなたのイメージに合う場所があるから、そこでやりなさい。」って。本当に彼女は、親身になつてサポートイングしてくれて。「この服は好きだけど、この服はもうひとつじゃない?」とか、も言つてくれる。「コムデギャルソンとかヨージ・ヤマモトのような服をパリで見せて、多分いらないと思うから、あなたが本当に好きな服をたくさん作つてきて。」「パリの人はこの辺は好きでしょう。」と、すごく明快に言つてくれる

日本で作っているものを、できるだけみんなが買えるようになにたいなというのがあるんです。国内では、良いものをとことん作ることと、買えそうな値段で良いものを作る方法を掘り下げる作業やつていて。同じ発想で、ヨーロッパにはヨーロッパで作つて。やはり、若い人に着てもらわないと、何の意味も無いし。

んですよ 気持ちかしいくら  
だから、ショーンの服も、いっぽ  
い作つていつて、パッキングの  
中にそのまま戻しちゃう服だと  
か、途中で変えてしまう服だと  
か、短くしたりとか。パリに行  
くと、そういう作業が多くて。  
そうしながらアダムともスタイ  
リングを組んでいつて、向こう  
に行くと空気が変わるというか  
着る人も変わるから。



つて、スタッフに言われて。シヨーをやつたとしても、大阪でやつたりするじゃないですか、當時は。パリ・大阪だけとか。東京でやつて日本のみんなが来てくれるよう、みんなとコミニケーションすることが先決だねというの、96年からは、東京コレクションを始めて。F.R. ビブレのお店を作ったのは、何かキッカケがあつたんですか？

山下 応援していただいて、買取りをしていただいて。ビブルー本社の直営ショップとして。

F.R. あそこは、ビブルー経営のお店なんですか？

山下 そうなんです。ビブルーにアーチというお店があるんですけど、最初はそこと取り引きをしていただいて。ヨーロッパブランドとかをセレクトしている、面白いお店なんですけど。そこからビブルさんが取り上げてくれた、あの場所を提供していただいて。

F.R. ビジネス的に急に大きくなってきたのはいつ頃なんですか？

山下 それはやっぱり、南船場

つたりとか、そういう方で。革の糸のニットとか、すごく面白いんですけど。その人とやっているながで、ビューティ・ビーストという発想のもとで、服を作らせてもらえないだろうかという話をして。先方にデザインを提供していたのが、変貌して、ライセンシーといふか、自分がデザインを提供できる服のアレンジというかたちでのおつき合いになつて。

ライセンシーという言葉はあまり好きじゃないんですけど。なんでいろんな会社で服を出すのかつていつたら、それは、一つのアイデアだつたんですよ。パリでコレクションをやらなくなつたのも、買えない服を見せてもらおうがない思つたので。パリはやめて、その代わりにロンドンでちゃんと作れるようになつたら、いつでも、パリに行って、コレクションをやつて、みんなに着てもらいたい。国内だつたら、例えば、革のジャケットを、僕たちが革屋さんに発注して、仕入れて、上代設定したら、15万円くらいになるんですよ。でも、その革の工場 자체がお店に直接送つたら、例えば、9万円とか7万円とかになるんですよ。

前回のコレクションの時、カジュアルとフォーマルが入り乱れたコレクションという総評が多く出た。

「eau t y : b e a s t 」といつて、「2」と書いてますけど、「ヨーロッパ」の「ツー」から來てるんですね。「T O O 」じゃディフュージョンのニュアンスがあるから、オルソ（A L S O ）いう名前で呼んでいるんですけど。これも、また、ピューティ・ビーストです。

の大井さんの店ですね。あのピュアプラスができるから。大井さんはずっと顧客だったんですね。顧客というか、アトリエに来ては、「これ良いなあ」とか言つてくれる方で。古い時代のジャケットとか持つてて。もともとアバールの営業マンだったんです。「絶対、この服は売れるよ！」とか言つてくれてたんです。そしたら「おれは、決心した。」って言い出して。「おれは、独立するから。」「君の服を売る店を作ろう。」って。それが南船場のお店なんです。彼が、丁寧に一人一人に売つてくれるようになつて。その翌年に、ビブルさんの話があつたんですよ。ビブルさんは、彼の店は見てなくて、別の部分で、アーチさんがきつかけで。それで大阪と東京にアンテナ・ショップができる。

F.R. 直営店は無いんですか？

山下 代官山の元アトリエだつたところを、7月に初めての直営店としてオープンしました。

F.R. 最近の状況はどうですか？

山下 けっこう、もう最近の話

15万の革ジャンを7万円で出せなんだつたら、同じクオリティでもっと安く作れる方法があるのかで、ビューティ・ビーストという発想のもとで、服を作らせてもらえないだろうかという話をして。F.R. ビジネス的に急に大きくなってきたのはいつ頃なんですか？

山下 それはやっぱり、南船場

15万の革ジャンを7万円で出せなんだつたら、同じクオリティでもっと安く作れる方法があるのかで、ビューティ・ビーストという発想のもとで、服を作らせてもらえないだろうかという話をして。F.R. ビジネス的に急に大きくなってきたのはいつ頃なんですか？

山下 それはやっぱり、南船場

15万の革ジャンを7万円で出せなんだつたら、同じクオリティでもっと安く作れる方法があるのかで、ビューティ・ビーストという発想のもとで、服を作らせてもらえないだろうかという話をして。F.R. ビジネス的に急に大きくなってきたのはいつ頃なんですか？

山下 それはやっぱり、南船場

15万の革ジャンを7万円で出せなんだつたら、同じクオリティでもっと安く作れる方法があるのかで、ビューティ・ビーストという発想のもとで、服を作らせてもらえないだろうかという話をして。F.R. ビジネス的に急に大きくなってきたのはいつ頃なんですか？

山下 それはやっぱり、南船場

ビューティ・ビーストのコンセ

プトって、結局、ファッショ

ンはより自由な言葉のツールとい

うか、洋服を記号化するとい

うか。単語のように、自由なツー

ル。洋服は情報だと思うんです。

ファッショントニーというの

は、一つの文章で、本なんです。僕

たちは、本の状態で思う存分提

案するんですけど、その中から、

バイヤーさんが展示会で、8ペ

ージ目とか24ページ目とか、

共感する部分をチョイスする。

で、お店に持ち帰ったときには、

もうバイヤーさんの言葉に変わ

ついて。例えネームタグが付

いていても。共感した時点でバ

イヤーさんの言葉になっている。

そしてその言葉は、お店に来る

若い子たちに通じる言葉になっ

ていると思うんです。

例えば、すごく激しく怒ってい

るというテーマのファッショ

ンショーやるとすると、その本に

は、激しく怒るまでのプロセス

が書かれている。そこからバイ

ヤーさんが、愛しているとか泣

いているという表現を抜き出し

ていく。その時点でバイヤーさ

んのティストに変わっていく。

次にその中から、一着のジャケ

ツトを拾う子にとっては、必要

なものとして、その子の形成を

喜んでたよとかっていうの情

報が、僕たちにキックバックし

てくるんです。要するに、情報

のキャッチボールとしてのツー

ルが洋服で。僕たちにとっての

コニユニケーション・ツールが

洋服だって考えるようになって、

すごくやりやすくなつたのかな。

ビューティ・ビーストのコンセ

プトは、「存在」なんですけど、

自分が、一番最初におやじに言

われたところに戻っちゃうんで

すけど、悪しき心というか、有

名になりたいとか、かつこ良く

なりたいとか、女にもてたいと

か、金持ちになりたいとか、欲

があるじゃないですか。でも欲

が無いと、向上心も無いと思う

んです。それは一見、ビースト、

ユーティ・ビーストとオルソ・ビ

ューティ・ビーストのミックス

のコレクションをして。服の感

じは、あれですね、ニューサベ

ージファッショ。なんか、そ

の辺が気になつてて。END.

もっと人を愛したいとか、ビュ

ーティな部分があつて。自分の

中に両方存在している。それが

が気付いたら、より良い人間に

なりたいという向上心に変わつ

ていくみたいな。要するに、ビ

ューティ・アンド・ビーストの

「アンド」を取つてしまつて、

美女と野獣の「と」を取つてしまつて、「コロン」だけでつな

がついて。最後には一つの言葉になつてしまふ。結局、自分

が存在しているということなん

ですけど、「存在」という言葉

が存在しているということなん

で、より、抽象的で、かつ單刀直入

なので。



## beauty:beast '98 SPRING SUMMER COLLECTION 速報







シャツ：古着（大阪の無国籍百貨で）

スカート：20471120

シューズ：ビューティーピースト

スカーフ：バイトの田中さんにもらった

ステッキ：出雲大社で買ってスプレーをぬった

帽子：表参道の帽子屋さんで

ファッションのポイント：帽子とステッキ

美容室：親戚のパーマハウスA

今ハマっている事：スケッチブックに服のコーディネイトを描くこと

好きな音楽：charで「陽炎」「視線」、ジャズ

赤川 司（20才）、大学生

--大阪から遊びに来た。

コート：A.P.C.

シューズ：ビルケンシュトック（もらいもの）

メガネ：下北沢で買ったもの

ファッションのポイント：どこでもすわれるよう。

美容室：STUDIO Ceg（大阪）

今ハマっている事：サングラス集め

好きな音楽：ジャズ、テクノ、ブラジル

リエ（20才）、短大生





浩

二

久  
我  
久  
我

久

我







ワンピース：W&LT  
ネックレス：ジョン ガリアーノ  
ファッショントピント：きのう切った前髪  
美容室：自分  
今ハマっている事：松田優作  
好きな音楽：ソウル  
マイココリコ（16才）、高校生



セーター：コム デ ギャルソン  
スカート：布をまいた  
シューズ：ジュンヤ ワタナベ  
ファッショントピント：たまねぎ頭  
美容室：VOLUME  
今ハマっている事：もようがえ  
好きな音楽：ハウス、テクノ  
あみ（17才）、高校生

ブラウス：中3のとき買ったやつ  
パンツ：古着  
シューズ：コージー クガ  
ネクタイ：600円で友達に作ってもらった  
ファッショントピント：これしかないから着てきた  
美容室：地元  
今ハマっている事：GLAY  
好きな音楽：GLAY  
マキコ（18才）、高校生



ジャケット：クラッチ  
セーター：クラッチ  
スカート：BA-TSU  
シューズ：BA-TSU  
ファッションのポイント：モアモアのマフラー  
美容室：ピーク ア ブー ア ネックス  
今ハマっている事：たくさん幸せをみつけること  
好きな音楽：レゲエ  
りさ（21才）、雑貨

ジャケット：ミルク  
セーター：昔どっかで買ったもの  
スカート：ミルク  
シューズ：ミルク  
リング：ミルクボーイのユニオンジャックリング  
バッグ：ミルク  
ファッションのポイント：モヘアと自作のネクタイ  
美容室：最近ぜんぜん行ってません。  
今ハマっている事：おしゃれ  
好きな音楽：レゲエ、スカ  
アイ（17才）、高校生



ジャケット：古着  
シャツ：自作  
スカート：自作  
シューズ：ゴージクガ  
バッグ：自作  
帽子：ミルクボーイ  
美容室：彼に切ってもらってる  
好きな音楽：パンク、ハードコア  
CHIZU（18才）、専門学校生

ワンピース：アンダーカバー  
美容室：GIRL LOVES BOY  
今ハマっている事：自転車  
好きな音楽：パンク、ガレージ  
19才、専門学校生





at TOKYO COLLECTION ( MILK )



at TOKYO COLLECTION ( MILK )



シャツ：ミルク  
パンツ：ミルクボーイ  
シューズ：ロボット（ラバーソール）  
バッグ：20471120  
帽子：アンダーカバー  
ファッショントピック：パンク  
美容室：自分  
今ハマっている事：パンク  
好きな音楽：ハードコア、メロコア、黒夢  
ひろし（17才）、高校生

シャツ：ミルク  
シューズ：コンバース オールスター  
バッグ：自作  
ファッショントピック：はりがね  
美容室：友達（かなえ）  
今ハマっている事：あね  
好きな音楽：スカパン  
17才、高校生

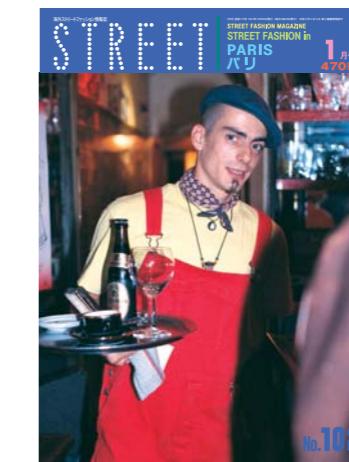
at TOKYO COLLECTION ( MILK )



at TOKYO COLLECTION ( MILK )



at TOKYO COLLECTION ( beauty:beast )



at TOKYO COLLECTION ( beauty:beast )



at TOKYO COLLECTION ( beauty:beast )



at TOKYO COLLECTION ( beauty:beast )



at TOKYO COLLECTION ( beauty:beast )



MESSAGE FROM SUPERLOVERS



LOVE IS ALWAYS ON MY MIND..  
TOGETHER FOREVER ❤

バックナンバーの問い合わせが  
殺到してますが、  
No.1~4 のすべてが、  
売り切れとなりました。

# FRUiTS

## 全国ローカル情報 募集

(ここに来て、とか  
おしゃれスポットはここ、とか  
オモシロイお店がある、とか  
取材のとき食べるおいしいお店はここ、  
みたいな)

次号予告  
1月19日  
発売予定  
内容未定

Fruitsは月刊です。  
毎月23日前後に  
発売です。

載っている服は、今販売して  
いないことが多いと思います  
ので、メーカーに問い合わせると  
きは、ご注意ください。

編集部へのお便り、プレゼントの  
お申し込みのとき住所を  
まちがえないよう気をつけてね。  
(恵比寿西です。)

こんなページを作成ほしい  
こんな企画をしてほしい  
募集

EDIT: Noriko KOJIMA  
編集発行人・青木正一  
発行所・ストリート編集室  
東京都渋谷区恵比寿西1-16-8-5F TEL150  
TEL(03)3463-2190 Fax(03)3463-2191  
THE STREET EDITORIAL OFFICE  
1-16-8-5F, EBISU-NISHI, SHIBUYA-KU, TOKYO, JAPAN  
©ストリート編集室 1997 Printed in Japan 1997.12.1

こんなものが流れてるとか、  
こんなことに凝ってるとか、  
これが面白いよとか、  
今これに注目とか、  
**ニュース募集**

(会社の方、デザイナー等の方々へ：  
プレスリリース等いただいておりますが、  
編集企画が合った場合に  
ご連絡させていただきます。  
ご了承ください。)

アンケートは、自己申告を  
そのまま掲載しています  
ので、まちがっていること  
もあります。